両立支援における iPHRの活用

産業医科大学作業関連疾患予防学 教授 PHR協会 理事 大神 明



デジタルPHRの概念

データ評価: 産業医・保健師 主治医 薬剤師 AI?

健康情報データ

クラウド サーバー キーチェーン

データ出力: 開示方法ースマホのアプリ、 ウエブサイト、ソフトウエア データ入力: 健診機関・事業場 病院・クリニック・薬局 個人ウエアラブル (PGD)

個人

閲覧→行動変容

そもそも、両立支援にとって、 デジタルPHRは有用なのか?

産業保健は両立支援の要

がんに限らず、あらゆる疾病の管理において、 就業と疾病管理との両立を支援することは産業保健の主目的

• 事業場が管理しているPHR(iPHR:個人の健康情報+就業/勤怠情報)をどのように利用するのか?

産業保健からみたPHR

事業場では安全配慮義務と自己健康管理の両視点から、労働安全 衛生法(安衛法)の範囲で健康診断を実施

紙ベースではあるが、疾患の有無は問わず個人の健康記録は蓄積 されてきた経緯

安衛法の健康診断+福利厚生としての人間ドック+特定保健指導 (メタボ健診)が混在している状況

産業保健の場では既にPHRは存在し、利活用されている。

労働安全衛生法が定める健康診断

(1)一般健康診断(法第66条第1項)

雇入時の健康診断(則第43条) 定期健康診断(則第44条) 特定業務従事者の健康診断(則第45条) 海外派遣労働者の健康診断(則第45条の2) 結核健康診断(則第46条) 給食従事者の検便(則第47条) 自発的健康診断(則第50条の2) (2)特殊健康診断

(法第66条第2項及び第3項、じん肺法)

高圧室内作業に係る業務、潜水業務、放射線業務、 特定化学 物質を取り扱う業務等の 有害な業務に従事する労働者に対する 健康診断 (令第22条)

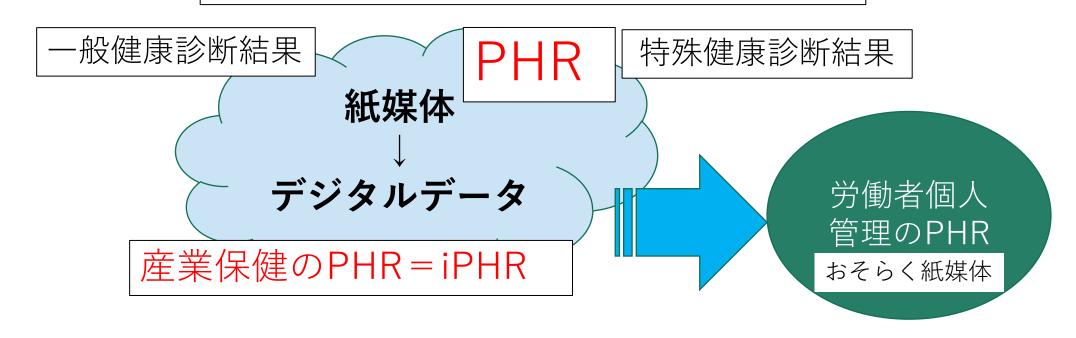
じん肺健康診断(じん肺法)

事業者は、上記の健康診断を受けた労働者全員に対して、 遅滞なくその結果を通知しなければならない(第66条の6)



産業保健の場では既にPHRは存在し、利活用されている。

労働安全衛生法が定める健康診断



事業者→(健診機関)→ 労働者全員に対して結果を通知

ある悪性疾患の例

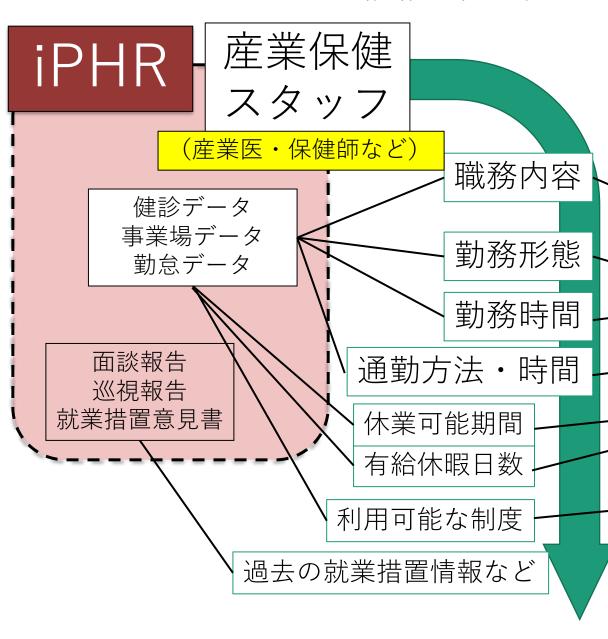
従業員: 製造業(従業員約100名) 45歳

・業務:機械メンテナンス 暑熱作業あり 重筋作業あり 交代勤務(3交代) 平均残業時間 20~25時間/月

21才時に右精巣腫瘍にて手術、その後症状なく経過観察していた。41才時に後腹膜腫瘍が見つかり、(リンパ節再発転移)により手術施行。本年6月より腫瘍の増大を認め、再々手術となる。

腫瘍除去とともに小腸による人工肛門形成術を施行した。経過良好のため退院となった。

産業医→主治医 このケースでの情報提供の例



勤務情報を主治医に提供する際の様式例

(主治医所属・氏名) 先生

今後の就業継続の可否、業務の内容について職場で配慮したほうがよいことなどについて、 先生にご意見をいただくための従業員の勤務に関する情報です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

	従業員氏名		生年月日	年	月 日
١	住所				
١	TAN 17		7.7.7.7.7.4.4.5.7.7.1.3.1.3.1.3.1.3.1.3.1.3.1.3.1.3.1.3		
	職種	※事務職、自動車の運転手、	建設作業員など		
	職務內容	製造業 業務:機械/ 書熱作業あり		業あり	立位 業 努
+			六化)		£
	勤務形態	📆 交代勤務(3	父仆	その他()
	勤務時間	『平均残業時間	20~25	<u>。週 日間。</u> 時間/月)
	通勤方法	□ 自動車・20分 通		·交通機関(着四	 圣不可能)
	休業可能期間	一〇月〇日まで	給与支給	ありし	
	有給休暇日数 その他 特記事項				
1	利用可能な 制度	在宅勤務制度	利用可能	i休暇 □時差 □試し出勤	
3	産業	(保健 ツフ	主流	台医	

主治医→産業医 このケースにおける情報提供の例

iPHR

産業保健スタッフ

復職に関する意見

この場合はPDF

で取り込み

健診データ事業場データ勤怠データ

面談報告 巡視報告 就業措置意見書 望ましい就業措置 に関する意見

治療方針・計画など その他特記事項

職場復帰の可否等について主治医の意見を求める際の様式例

 患者氏名
 生年月日
 年
 月
 日

 住所

復職に関する 意見 条件付き可

業務の内容につ

いて職場で配慮したほうがよい

こと (望ましい就業 トの措置) 暑熱作業・重筋作業は 控えることが望ましい 人工肛門に差し支えない 作業が望ましい

その他配慮事項

上記の措置期間

3月に1度の検査フォローアップ予定 抗がん剤○月まで使用予定(○○○5 m g 2錠)

記内容を確認し

学 半成

月 日

(本人署名)

, į

産業保健スタッフ

(休業:~

大式は、患者が病状を悪化させることなく治療と就労を ものです。この書類は、患者本人から会社に提供され、

(産業医・保健師など)

iPHR

健診機関

健診データ 事業場データ 勤怠データ

面談報告 巡視報告 就業措置意見書

産業保健スタッフ

事業場

必要なデータ

労働者個人 管理のPHR

労働者

両立支援プラン・職場復帰支援プラン

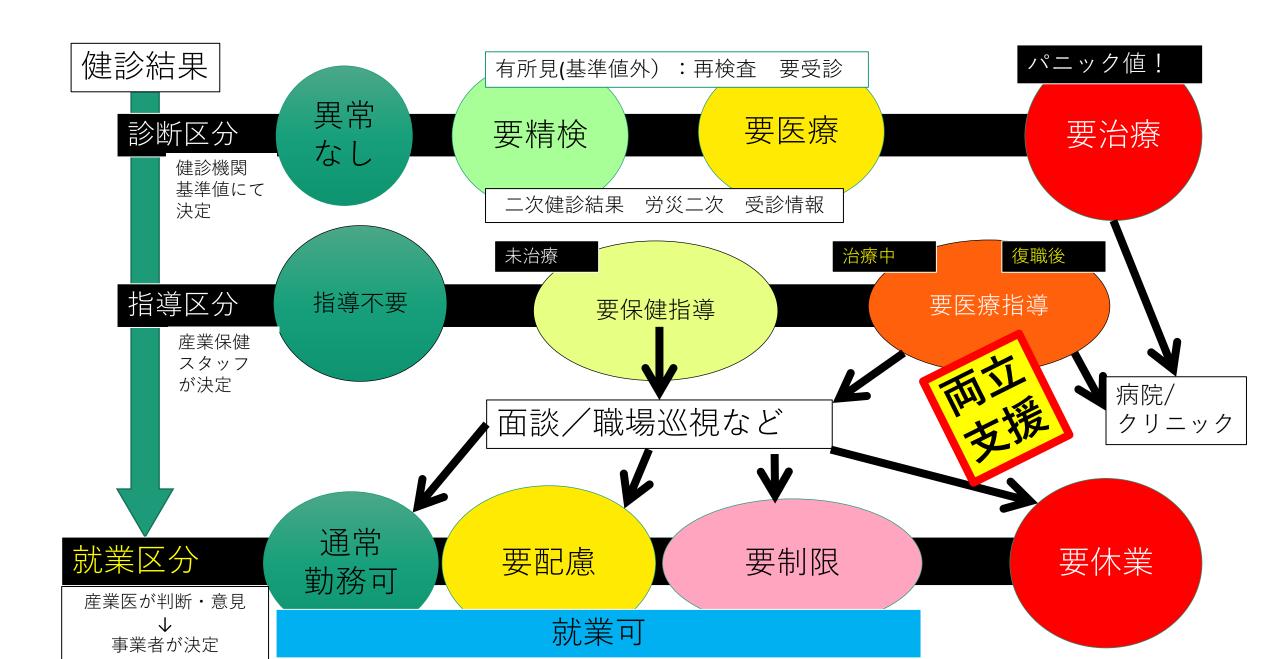
作成日:

年

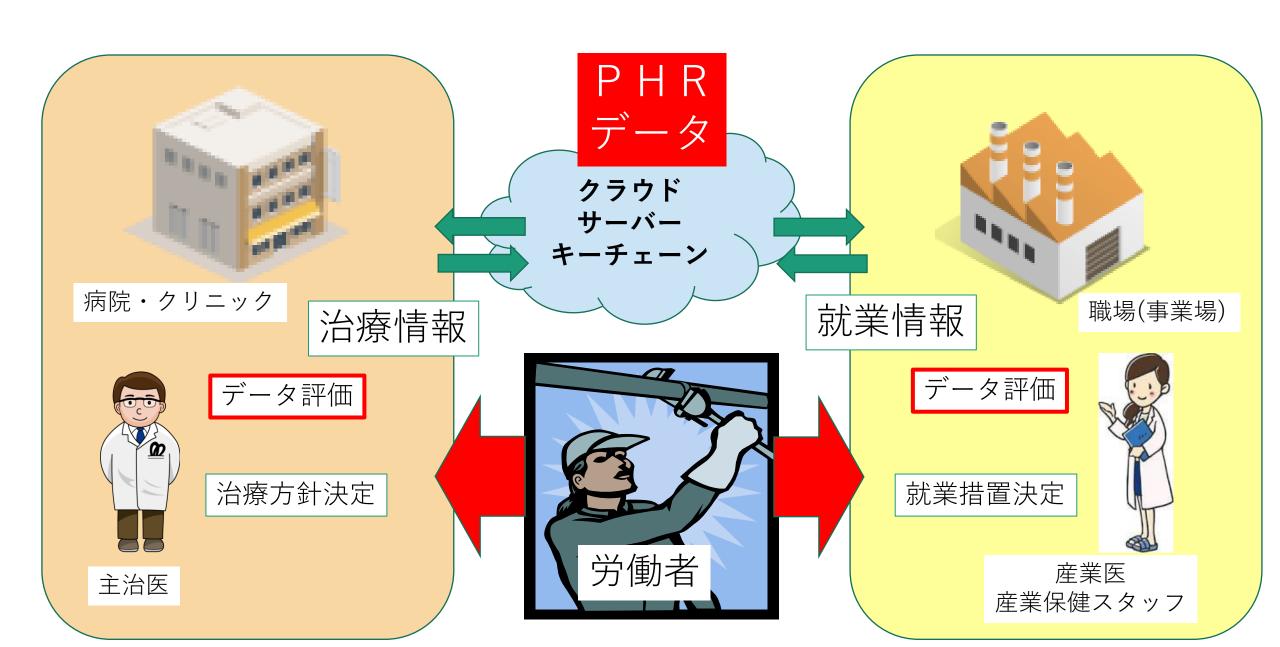
日

作成日:	年	<u>月 日</u>					
従業員			生年月日		性別		
氏名			, , , ,	日 	男・女		
所属	1		従業員番号				
治療・投薬 等の状況、 今後の予定	 ・入院による手術済み。 ・今後1か月間、平日5日間の通院治療が必要。 ・その後薬物療法による治療の予定。週1回の通院1か月、その後月1回の通際に移行予定。 ・治療期間を通し副作用として疲れやすさや免疫力の低下等の症状が予想される。 ※職場復帰支援プランの場合は、職場復帰日についても記載 						
期間	勤務時間	就業上の措置	置・治療への配慮等		(参考) 治療等の予定		
(記載例)	10:00 ~ 15:00 (1時間休 憩)	短時間勤務 毎日の通院配慮要 平日毎日通院・放射線治療 残業・深夜勤務・遠隔地出張禁止 作業転換					
2か月目	10:00 ~ 17:00 (1時間休 憩)	短時間勤務 通院日の時間単位の休暇取得に配慮 残業・深夜勤務・遠隔地出張禁止 作業転換		週 1 回通院・薬物療法 (症状:疲れやすさ、免疫力の低下等			
3か月目	9:00 ~ 17:30 (1時間休 憩)	通常勤務に復帰 残業1日当たり 深夜勤務・遠隔 作業転換) 1 時間まで可	月 1 回通院・薬物療法 (症状:疲れやすさ、免疫力の低下等			
業務内容	・治療期間中は負荷軽減のため作業転換を行い、製品の運搬・配達業務から部署内の●●業務に変更する。						
その他 就業上の 配慮事項	・副作用により疲れやすくなることが見込まれるため、体調に応じて、適時休憩 認める。						
その他	・治療開始後は、2週間ごとに産業医・本人・総務担当で面談を行い、必要に応してプランの見直しを行う。(面談予定日:●月●日●~●時) ・労働者においては、通院・服薬を継続し、自己中断をしないこと。また、体調の変化に留意し、体調不良の訴えは上司に伝達のこと。						

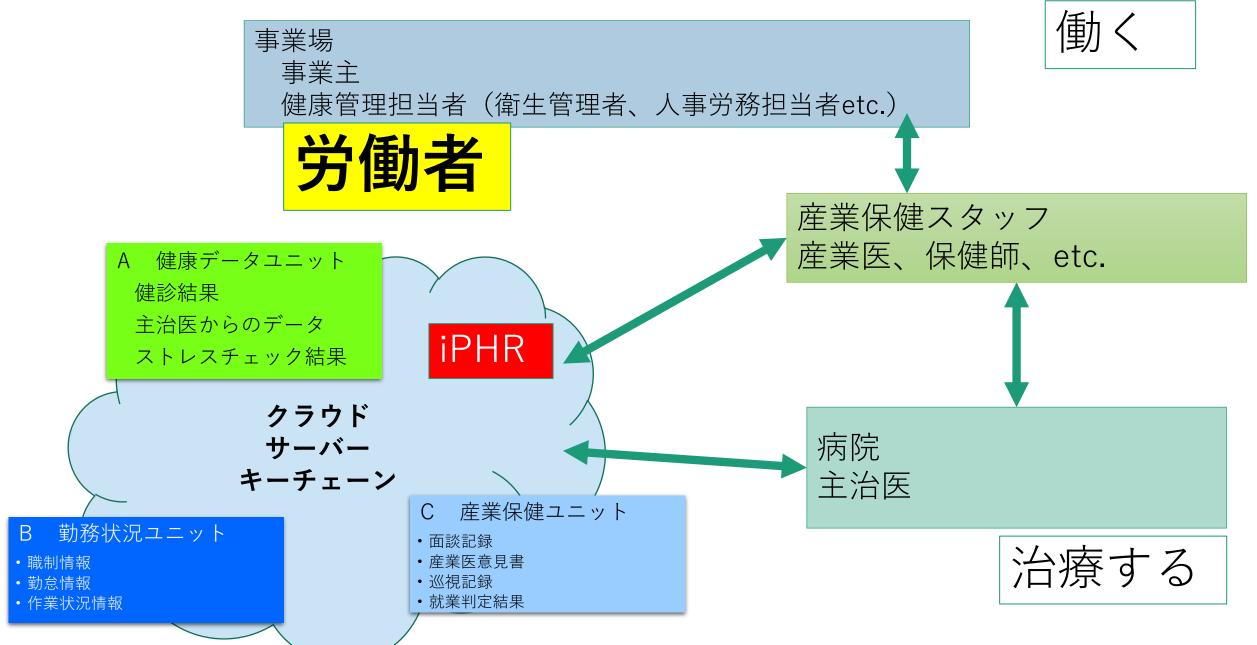
健康診断結果から就業判定までのフロー



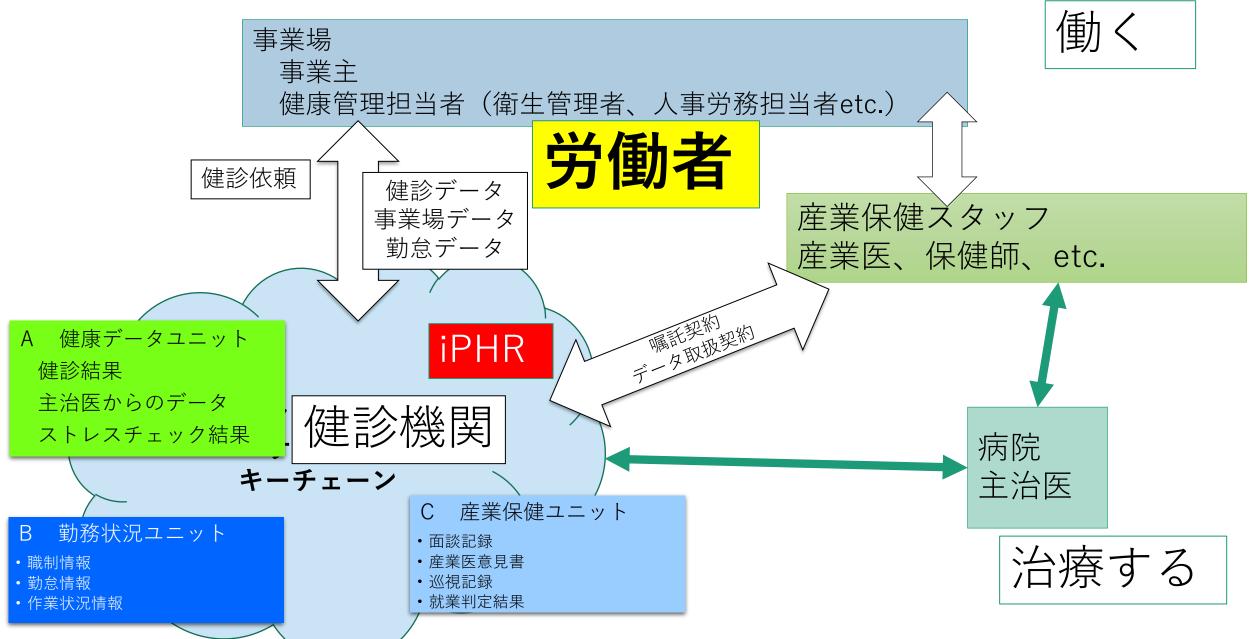
両立支援と産業保健との関係



両立支援におけるPHRの関係



両立支援におけるPHRの関係



事業場内PHR (iPHR) とPHRとの連携 (iPHR@PHR)













IPHR@PHR 目的は?

IPHR@PHR 対象は誰?

IPHR@PHR 形態は?

IPHR@PHR 使い方は?

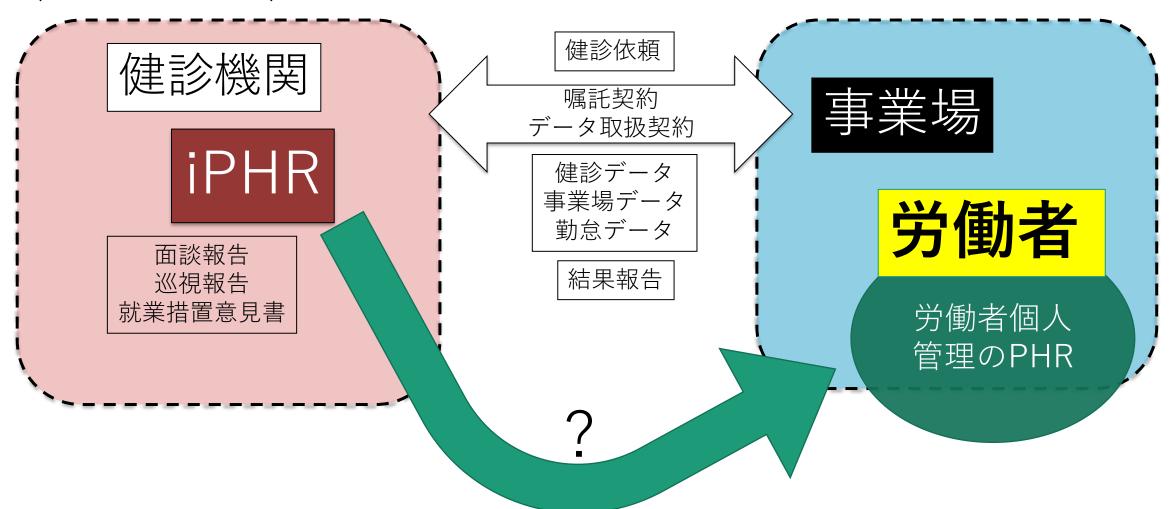
IPHR@PHR 管理は?

IPHR@PHR

データの

更新は?

事業場内PHR(iPHR)とPHRとの連携 (iPHR@PHR)



健診機関がPHR主体を持つ場合、 労働者個人にPHRの情報をどのように渡すか?

iPHR@PHRの目的は?

• 未病者に対して:健康管理・健康維持・発症予防

• 有病者に対して:健康状態管理・内服管理・通院管理

→ 両立支援

• 労働者に対して:作業関連疾患予防・安全配慮義務履行・就業 措置判定・就業管理

iPHR@PHRの対象は?

• 年齡·性別:

若年労働者ー生活習慣予防のツールとして活用 高齢労働者ー健康管理・服薬管理のツールとして活用 性別:体調管理などのツールとして活用

職種

特殊有害業務従事者:疾病予防管理ツールとして活用 医療従事者:健康管理・感染対策ツールとして活用

• 作業態様

交代勤務従事者:健康管理・疲労度管理ツールとして活用 テレワーク従事者:健康管理:メンタルヘルス管理ツールと して活用

iPHR@PHRの形態は?

何を開示するか?健診などの検査データ:経年・経時的記録→ グラフ・表で可視化

データ評価による健康指標の提示

健診受診・外来受診などに関する情報 健康管理に関する情報(食事療法・体力増進・ストレス解消法 など)

•情報は簡単・簡略・簡潔であること

iPHR@PHRの形態は?

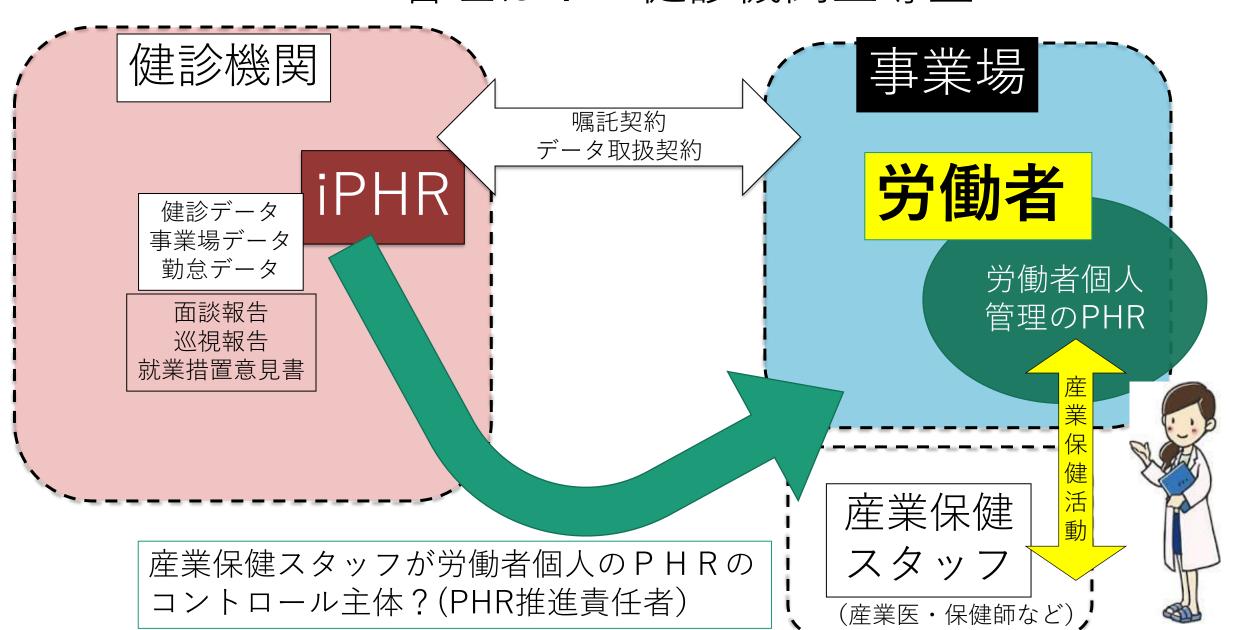
- スマートフォン上で公開する形。データを単純に開示する型データ評価を加えて開示する型
- ウエブサイトで公開する形。データを単純に開示する型データ評価を加えて開示する型
- データは個人管理(ICチップなど)し、読み取り・開示ソフトで公開する形。

iPHR@PHRの使用方法は?

個人で契約 ウエブサイトでに閲覧 アプリをダウンロード PHR事業者と契約

事業所で契約 社内イントラでの閲覧 アプリを配布

iPHR@PHRの管理は?:健診機関主導型



iPHR@PHRのデータの更新は?

個人で更新
 PGD(personal generated data):
 ウエアラブルデバイスから入力

管理母体で更新(PHR業者、健診機関、事業場)

iPHR@PHRの使用方法は?

個人で契約 ウエブサイトでに閲覧 アプリをダウンロード PHR事業者と契約

事業所で契約 社内イントラでの閲覧 アプリを配布

糖尿病管理の例

- 従業員 製造業 45歳
- ・業務:機械メンテナンス 暑熱作業あり 重筋作業あり 交代勤務(3交代) 平均残業時間 20~25時間/月

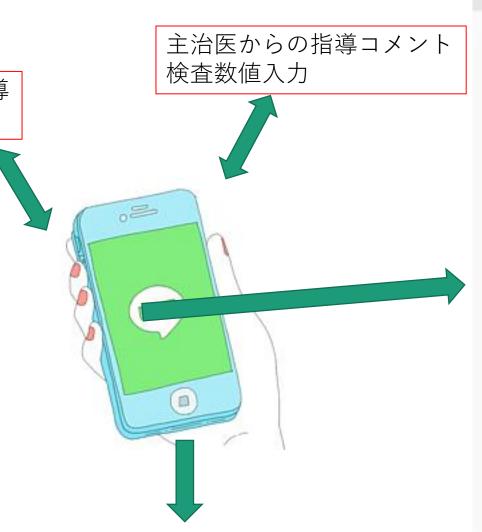
直近の定期健康診断結果にて(45条健診)でHbA1c: 11.1(↑)糖尿病内科受診の結果、大学病院紹介受診し、同 病院に9月12日~25日まで教育入院。

合併症はなく、糖尿病薬250mgを1日3回服薬指示 血糖コントロール(HbA1c)の推移は、8月30日:10.9、

10月4日:7.8、11月1日:6.6と改善傾向

携帯の画像で 自分のPHRを確認

産業医・保健師からの指導 面談コメント入力



適切な生活習慣管理

個人健康記録閲覧システム

基本画面イメージ



まとめ

両立支援にとって、 デジタルPHRは有用、 というより必須です。